



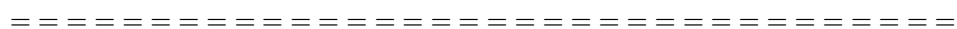
地域日本語支援ニュース こだま 第 357 号

2019.3.28



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■教材開発レポート■

日本で暮らす外国人、働く外国人を支援する教材開発

外国人就労者は、少子高齢化の日本を久しい以前から支え続けてきましたが、出入国管理法の改正で、2019 年春から日本に長期滞在する外国人のあらたな来日が予想されます。当協会では、日本各地で暮らす外国人、働く外国人の日本語学習の支援を目指して、ただいま、二つの教材開発を続けています。制作現場からレポートいたします。

.....

◆『生活の中の漢字かるた』

来日間もない外国人にとって、街や施設で目にする標識やサインの認識は、日本での生活の第一歩です。当協会では、長年、インドシナ難民、条約難民、第三国定住難民への日本語教育に携わってきた日本語教師たちが、その教室実践をもとに「生活の中の漢字かるた教材」の制作を進めています。

制作グループでは打ち合わせを重ねて、駅、街、店、銀行、郵便局、病院等、生活場面ごとに必要となる仮名や漢字の標識 106 を厳選し、瞬時に意味が理解できて必要な行動がとれるように、繰り返し学習ができる教材を考えました。日本語で話せることがまだ少ない入門レベルからでも、絵を介して支援者とコミュニケーションを図り、見て、聞いて、読んで、さまざまな使い方ができるような形はどんなものか、試行錯誤を経て、出た結論は、札を 3 種類設けるこ

とでした。

すなわち、標識・サインそのものの札、その意味をイラストで表した絵札、そして簡単な文レベルの読み札を組み合わせることで、学習の可能性を広げようというものです。そして、読み札には例文のほかに、必要に応じた補足情報が記されています。例えば、「小児科」には「12 歳以下の子どもが行きます」、「可燃ごみ」には「地域によって言い方が違います」といった注釈をつけています。

かるたの要となる絵札については、制作グループのひとりが、日本語教師としての視点から絵筆をとり、描いています。文化的背景の異なる外国人が見て、わかりやすいかどうかをグループで検討し、一枚一枚仕上げていくところです。

◆『あたらしい じっせんにほんご 続編 1』『同 続編 2』

“技術研修”時代から“技能実習”の現在まで、当協会では、現場で役立つ実践的な日本語学習教材の開発を続けてきました。既刊の「あたらしいじっせんにほんご」は入門編に当たります。それは、当初、長期間の日本語学習が望めない実習生のために、従来型の初級文法の積み上げではなく、「くちならし」や「よくきいて、そのとおりにうごく」練習を徹底し、短期に現場志向の日本語の体得を叶える、大きな発想の転換でした。

この春あらたに入管法が改正となり、現場で働く外国人の受け入れが新たな時代を迎えようとする今、職種の拡大や滞在期間の延長で、サバイバルレベルを超える日本語学習が必要になっています。そうしたニーズに応えようと、協会では『あたらしいじっせんにほんご 続編 1』の制作を始めました。初級中盤からの文型もしっかり身に付くように、学習項目を充実させていますが、これまでの体得型の練習は変わらず、動詞の活用でも文型でも、口慣らしを中心とすることで定着を図ります。文型は意味理解を助けるイラスト付きです。今後は接客業への就労が増えることを考え、伝わる日本語の発音を重視し、音やリズムを楽しく身に付ける頁も設けています。聴く力については、TPR 教授法に基づき、よく聞いてその通りに動くトレーニングで、指示理解を現場での仕事に直結させます。入門編では「ていねいなことば」(丁寧体)と「ともだちことば」(普通体)を早い段階から紹介し、指示として圧倒的な量を聴く普通体の理解を促していますが、これも上司から聴く言葉、答える言葉の別として、続編でも意識的に取り入れました。

続編では長期滞在化が進み、日本語レベルの向上が求められる就労者のために、聞く・話す練習、読む・書く練習と四技能を取り上げ、報告や日誌の読み書きなどにつながる力を養うことも大切にしています。N5 までの漢字、N4 までの語彙に加え、就労現場に必要な標識等の漢字や作業動詞等の表現も含めました。

続編の特徴としてもうひとつ、日本の就労現場の文化・事情を取り上げた「みんなで考えましょう」があります。言葉遣いや謝罪、遅刻や退社などについて、文化の違いからくる違和感をとりぞき、正しく理解してもらうために、執筆グループでディスカッションを重ねています。

(公益社団法人国際日本語普及協会 水野 晴美)
